

ニューノーマル時代の映像伝送技術

「SRT」

コロナ禍に対応したリモートプロダクション・動画配信に最適な 高品質・安全映像伝送プロトコル

HD・4K映像を公衆回線で高画質・低遅延・安全に送れる映像伝送プロトコル「SRT」。放送・映像業界を中心に利用が拡大していたが、昨年からはコロナ禍における映像コンテンツのリモートプロダクションや企業の遠隔会議などに最適な技術として、改めて注目されている。ニューノーマル時代の映像伝送技術としてのSRTの可能性を市場動向、技術、導入事例、主要なソリューションの観点で特集する。（渡辺 元・本誌編集長）

公衆回線でも高画質・低遅延伝送 欧州から世界に利用が拡大中

SRT (Secure Reliable Transport) は、2017年にオープンソース化された新しい映像伝送プロトコルだ。その名称が示すように、映像を暗号化して伝送する安全性 (Secure)、パケットロス再生する伝送の確実性 (Reliable)、クラウドやさまざまな機器間で伝送できる接続性 (Transport) が特長。HDや4Kの映像を公衆回線でも高画質かつ低遅延で伝送することができるため、映像コンテンツ配信やリモートプロダクションでの利用が欧州から世界に拡大している。Zixiなど競合している映像伝送プロトコルもあるが、オープンソース化されたSRTは各国のプログラマーが改良に取り組んでいるため進化速度が速く、現在は映像伝送プロトコルのデファクトスタンダードの一つになっている。

このように従来から注目されていたSRTだが、2020年からはコロナ禍によって、さらに期待が高まっている。

コロナ禍のリモートワークで SRTの需要・導入が急増

SRTを開発したカナダHaivision社の日本での代理店である伊藤忠ケーブルシステムは、リモートプロダクションの需要増加を受け、ポストプロダクションなどに向けたSRTを使ったりリモートプレビューシステムの提案に注力している。このシステムは、SRTで高画質映像を低遅延で伝送することで、スタッフが離れたオフィスや自宅からリモートプレビューができる。伊藤忠ケーブルシステム株式会社 ネットワークソリューション本部 メディアサービス部 部長代行 石川 勇氏は、「欧米ではもともとコロナ以前から効率化のためにリモートプレビューが使われていましたが、日本ではリモートプロダクションに信頼が置かれていなかったのが現状でした。それがコロナ禍によって、日本でもリモートプレビューの導入が活発になっています。SRTを用いれば関係者の自宅でも綺麗な画質でプレビューすることができるという認識が、放送・映像業界に浸透し始

めています」と指摘する。同社は放送・映像業界だけでなく、企業の遠隔会議などの用途に対してもSRTを使ったシステムの販売に力を入れている。

同じくHaivision社の日本における代理店のPALTEKも放送・映像、防衛、医療、一般企業などの分野に、SRTによる「映像伝送ソリューション」を販売している。同社でも、コロナ禍以降は特に引き合いが増加しているという。株式会社PALTEK エンジニアリングディビジョン TS FAE 部長 井坂一喜氏は、「これまで以上に引き合いが強く、詳しい説明を聞きたいとか、伝送試験をやってみたいといったお客様が増えています。コロナでリモートプロダクションが非常に重要になったことが、間違いなくSRTの需要が拡大している要因だと思います」と語る。リモートワークを異なるロケーション間でする場合、Wi-Fiなど無線で接続するケースが多いことも、パケットロスに強いSRTが求められている要因の一つになっているようだ。これまで日本市場では新しい映像伝送技術の導入には比較的慎重だったが、コロ